

編集後記

先日 ある会合で福井謙一先生の「研究の芽と成長」と題する御講演を聞く機会がありました。先生御自身の「フロンティア電子理論」の研究の道程を範として 研究の芽が 周囲からの養分の補給を得て成木として花咲かせるに至るドラマチックなお話でした。

後進の研究者に励ましをいただいた訳ですが、その時 先生は半ば冗談まじりに「基礎研究には目的なんてありません。科研費申請の時には書かねばなりません…」と言う御主旨の事をおっしゃいました。自己流に解釈すると 基礎研究は多分に研究者個人の抱く疑問に根ざして、これがわかれば何に役立というたぐいの目的はないんだという事だと思いました。山があるから登るに似て 自分にとって目前に立ちふさがる疑問があり、誰れもが踏み込んでいないから研究をする。それは小さな疑問かも知れないのです。こうしたロマンに満ちた研究を志向しながらも 日常的には流れに沿った研究に埋没する自分を問いなおすよい機会となりました。

幾度か論じられましたが、本誌のユニークな存在意義について考える時、萌芽となる研究やロマンに満ちた研究の交流の場として本誌が役立ち、多くの人が寄稿されることを願っています。

(Y. A. 記)

訂正とお詫び

本誌 43 No. 5 (2月号) の 246 頁と 247 頁が、前後逆になっています。お詫びして訂正致します。

物 性 研 究 第 43 卷 第 6 号 (昭 和 60 年 3 月 号) 1985 年 3 月 20 日 発 行

発行人	蔵 本 由 紀	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒 606	京都市百万辺交叉点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒 606	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内

年額 13,200円